



ふれディア治療院



全国相談窓口 ☎ 0120-116-017

発行/ふれディアグループ本部 編集部
〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁1-3-4朝霞台駅前ビル8F

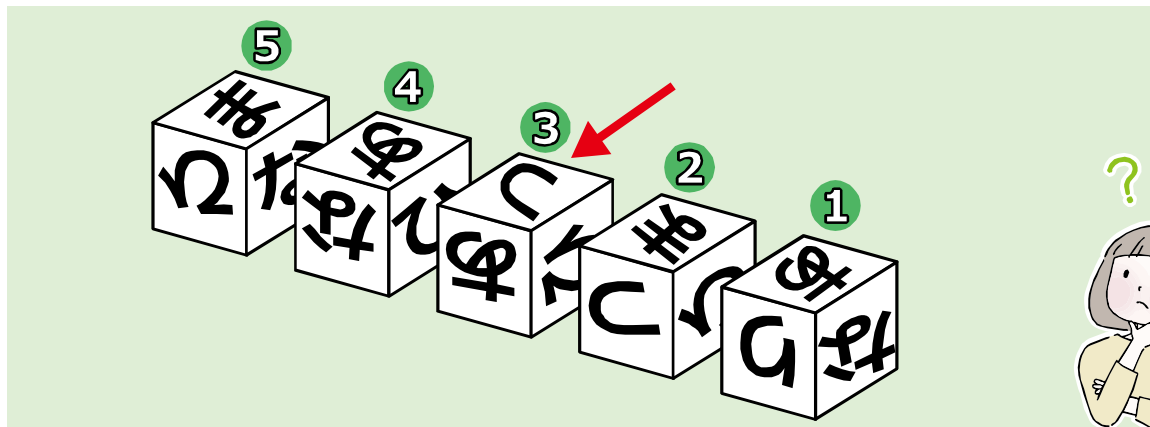
こんにちは、ふれディア通信編集部です。3月3日はひな祭りですね。雛人形や桃の花を飾り、ちらし寿司などのごちそうを楽しむ日ですが、今年の3月3日は夜にもう一つ特別なイベントがあります。太陽・地球・月がこの順に一直線に並び、月が地球の影に入ること欠けたり暗く見えたりする「月食」が起きる日です。今回は、月がすべて地球の影に入る「皆既月食^{かいきげつしょく}」が見られます。「皆既月食」は地球全体では年に1〜2回程度発生すると言われていたりますが、これは「地球上のどこかで見られる」というだけ。日本で観測できるのは、数年に一度！月は東の空で夕方に欠け始め、東〜南東の空へ移動しながら観察できます。一部だけ欠けて見える「部分食」の始まりは月が低い位置にあるため、事前に空が開けた場所を探しておくとも見やすいかもしれません。今回の「皆既月食」は約1時間続き、欠け始めから終わりまでは全体で約4時間にわたって観察できます。「皆既月食」の月は真っ暗で見えなくなるわけではなく、「赤銅色^{しやくどういろ}」という赤黒い色になり、「血の月」を意味する「ブラッドムーン」と呼ばれることもあります。少し怖い響きですが、赤く見えるのには理由があるそう。月が地球の影に入ると太陽光は直接届きませんが、地球の大気を通過した太陽光の一部は月へ届きます。その際、波長の短い青い光は散乱され、波長の長い赤い光だけが月に届くため、赤黒く見えるのだそうです。月食の仕組みが分かっていた時代、「ブラッドムーン」は神の怒りや不幸の前触れと結びつけられ、「見てはいけない」と言われたこともありました。しかし、科学的根拠はなく、言い伝えにすぎません。むしろ、数少ないチャンスですからぜひ観察してみたいですね。21時頃に「皆既月食」が終わると、その後は影から出た部分が徐々に明るさを取り戻し、22時過ぎには南東の空で「部分食」が終わります。大きな夜ふかしをしなくても観察できる、うれしい時間帯の月食です。日本全国で見られる「皆既月食」は2025年9月8日以来。次は2029年1月1日で、0時を回って年が明けるとすぐに月が欠け始めるとい、面白いタイミングになるそうです。なかなか見られない神秘的な天体ショーが楽しみです。



“脳”トレーニングで“脳”年齢を若く・“脳”を活性化!

ことばサイコロの推理クイズ

ひらがなが書いてある、同じサイコロを5つ並べました。→の方向から
①〜⑤の順番に読むと、3月に関係したどんなことばが完成するでしょう?



“解答”は他のページに載っています。答えがわかるまでじっくり考えることが脳の活性化につながります!